

ドイツの 子どもの 本の魅力

— ブッシュ、エンデから現在まで —

日本ではグリムやミヒャエル・エンデなど、
多くのドイツの児童書が翻訳出版されています。

日本の代表的なドイツ児童文学翻訳者である上田真而子さんが
当財団にこれまで翻訳した本の貴重な原書を寄贈されました。
それを記念して、ドイツの児童書の受容の歴史を振り返り、
ドイツ児童文学の現状、および未来について考える
講演会を行います。

講師

上田 真而子 (うえだ まにこ) さん
ドイツ文学翻訳家



1930年生まれ。
京都府立女子専門学校卒業。ドイツ・マールブルク大学で学び、
京都ドイツ文化センターに勤務の後、児童文学の翻訳を始める。
1982年に『はてしない物語』（エンデ著 佐藤真理子と共訳 岩波書店）で日本翻訳文化賞、1988年に『あの年の春は早くきた』（C. ネストリンガー著 岩波書店 1984）で国際アンデルセン賞国内賞を受賞。
古典作品であるブッシュ『マクスとモーリツのいたずら』（岩波書店 1986）、リヒター『あのころはフリードリヒがいた』（岩波書店 1977）など翻訳作品多数。著書に『幼い日への旅』（福音館書店 1994）などがある。2015年に翻訳の原書など約500点を寄贈。

講演

- 1 **ドイツの子どもの本の魅力**
— 翻訳を通して出会った作家・作品たち —
講師：上田 真而子さん
- 2 **ドイツの子どもの本**
— 過去から未来へ —
講師：酒寄 進一さん

平成29年

11月12日(日)
13:30~16:00

対象：子どもの本に関心のある方ならどなたでも
定員：80名(申込先着順)
参加費：一人 1,000円
申込方法：HP、電話、ファックス

**大阪府立中央図書館
2階大会議室**

東大阪市荒本北1-2-1
近鉄けいはんな線荒本駅(地下鉄中央線)北西400m

講師

酒寄 進一 (さかより しんいち) さん
ドイツ文学翻訳家、和光大学教授



1958年生まれ。
和光大学教授。ドイツ文学、ドイツ児童文学について講義を行う傍ら、翻訳家として精力的にドイツ文学を翻訳紹介している。
児童書では、コルシュノフ『ちびドラゴンのおくりもの』（国土社 1989）、コルドン『ベルリン』3部作（理論社 2001、2006、2007）、ヘルト『赤毛のゾラ』上下巻（福音館書店 2016）などがあるほか、2017年は子どもを題材にしたヴェデキントの戯曲『春のめざめ』（岩波書店）を翻訳出版した。コルドンやイーザウなどのドイツの児童文学作家の日本への招聘等も行っている。



左：『はてしない物語』
ミヒャエル・エンデ作
上田真而子・佐藤真理子訳
岩波書店 1982年

右：『マクスとモーリツのいたずら』
ヴィルヘルム・ブッシュ作
上田真而子訳
岩波書店 1986年

同時開催

展示 「ドイツの子どもの本の魅力
— 翻訳者 上田真而子の仕事 —」

11月10日(金)~12月28日(木)

主催・会場：大阪府立中央図書館 休館日あり

主催・問合せ



一般財団法人
大阪国際児童文学振興財団
International Institute for Children's Literature, Osaka

後援：大阪府立中央図書館 助成：子どもゆめ基金助成活動

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL 06-6744-0581 FAX 06-6744-0582
http://www.iiclo.or.jp/ E-mail:office@iiclo.or.jp